

くすり一口メモ

手術時に休薬が必要な経口女性ホルモン製剤

女性ホルモン製剤には、卵胞ホルモン（エストロゲン）製剤、黄体ホルモン（プロゲステロゲン）製剤、卵胞・黄体ホルモン配合剤、女性・男性ホルモン配合剤があります。

エストロゲン製剤には重大な副作用として血栓症があげられます。それはエストロゲンが肝臓において血液凝固因子合成を促進させる作用を持っているからです。また、プロゲステロゲンはLDL-コレステロール上昇や糖代謝異常、インスリン抵抗性の増加により、動脈硬化や血管障害を誘導しやすいホルモンとなっています。そのため、女性ホルモン製剤のなかには手術前の投与が禁忌となっているものがあります。今回は添付文書に手術前の休薬について記載されている経口女性ホルモン製剤についてまとめました。

添付文書に手術前の休薬に関して記載のある経口女性ホルモン製剤

分類	成分名	商品名	添付文書
卵胞ホルモン製剤	結合型エストロゲン	ブレマリン錠0.625mg	【慎重投与】 手術前4週以内または長期臥床状態の患者〔血液凝固能が亢進し、血管系の副作用の危険性が高くなるおそれがあるので、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与する〕
卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤 <small>低用量経口避妊薬(OC)</small>	エチニルエストラジオール・ドロスピレノン	ヤーズ配合錠	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内および長期間安静状態の患者〔血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなる可能性がある〕 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること
	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	ルナベル配合錠LD ルナベル配合錠ULD	
	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	オソゾM-21錠 オソゾ777-21錠 シンフェーズT28錠	
	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル	アンジュ21錠 アンジュ28錠 トリキュラー21錠 トリキュラー28錠	
	エチニルエストラジオール・デソゲステレル	マーベロン21錠 マーベロン28錠	
黄体ホルモン製剤	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	ヒスロンH錠200mg プロゲストン錠200	【禁忌】 血栓症を起こすおそれの高い次の患者 手術後1週間以内の患者 【慎重投与】 血栓症を起こすおそれのある次の患者 手術後1カ月以内の患者

一口に経口女性ホルモン製剤といっても手術前の投薬制限が一律に設定されているわけではありません。これには配合されているエストロゲン活性の強さやその薬剤の使用目的などが関係しています。例えば経口避妊薬(OC)の場合、エストロゲンの合成物であるエチニルエストラジオール(EE)が配合されています。このEEはホルモン補充療法で用いられる結合型エストロゲンよりも強いホルモン活性を持っており、生物作用を比較すると低用量OC1錠は結合型エストロゲン製剤の6~8錠に相当します。またOCに配合されているプロゲステロゲンはアンドロゲン作用を持っているため、より脂質代謝異常をきたしやすいといわれています。したがって、OCはホルモン補充療法で用いるホルモン剤と比較し動脈血栓症のリスクが高いと考えられます。加えて、避妊目的でOCを服用している場合は、治療目的ではない健康人が服用しているという服用者側の背景もあり、OCは一律に厳しい手術前の投薬規制となっているのです。

エストロゲン製剤は静脈血栓塞栓症の危険因子の一つです。手術前には女性ホルモン製剤服薬の有無の確認をお願いします。

〔参考資料〕日産婦誌54巻9号, 今日の治療薬2014, 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン, 添付文書

(鹿児島市医師会病院薬剤部 平松さやか)